

情勢報告（令和元年7月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

栽培技術のステップアップを目指せ！ ～甘長トウガラシ視察研修～



篤農家の管理を勉強中

6月20日、甘長トウガラシ生産者8人が、他産地の篤農家の技術を学ぶため、JA高知県津野山営農経済センターへの視察研修に参加しました。

普及所は事前に生産者から疑問点や栽培管理などを聞き取り、当日は篤農家と積極的に意見交換できるように支援しました。

生産者からは仕立てや整枝方法、灌水管管理、規格などについて、活発に意見交換が行われ、参加者からは「栽培管理のイメージができ、参考になった」という声が聞かれました。

普及所は、今回の研修内容が管内生産者の管理に活かされるよう、JAと協力しながら指導していきます。

GAPへ取り組もう！ ～吟の夢現地検討会～



ほ場の状況を熱心にメモする生産者ら

6月20日、本山町、土佐町で酒米‘吟の夢’の現地検討会が開催され、生産者10人、土佐酒造2人が参加しました。

普及所は高知県版GAPの進捗確認を行った後、参加者とともに水田ほ場、ライスセンター、倉庫の3か所をまわってGAPの点検を行いました。

生産者からは高知県版GAPの不明な点について多くの質問が出されるなど、意欲的に取り組む姿勢がみられました。

普及所は今回のGAP点検の結果をまとめて生産者に報告するなど、生産者の作業環境の向上に取り組んでいきます。

嶺北産ユズの輸出拡大に向けて ～新たな販売先の検討～



出荷用の箱を確認

6月25日、JA高知県れいほく営農経済センター大田口支所で、輸出業者、JA、県関係者7人がユズ青果輸出に向けて打合せました。

嶺北産ユズをPRするため、平成26年からオランダ向けに青果ユズを輸出していますが、新たな業者によりオランダ以外へユズを輸出できないかと打診がありました。普及所では、JAと一緒に輸出の現状（生産者数、出荷量、殺菌、箱詰め作業等）を説明し、規格、荷姿、輸送方法等を協議した結果、本年産から輸出を開始することになりました。

今後も普及所は、ユズの輸出拡大に向けて、生産者の栽培管理指導と輸出業者との関係づくりを支援していきます。

米ナスの良品質出荷を目指して ～JA土佐れいほく米ナス部会目慣らし会～



出荷規格について熱心に確認する部会員

6月25日、JA高知県れいほく米ナス部会は、JA本所集出荷場で目慣らし会を開催し、計9人の生産者が参加しました。

普及所からは、夏期の高温時に向けたかん水・追肥や日射比例かん水制御装置の実証経過などを説明しました。若い参加者からは、日射比例かん水制御装置を導入したいという声が聞かれました。

普及所は、今後も適期の栽培管理や新技術の導入のため、JAと連携して部会活動を支援していきます。

令和元年度普及指導計画について意見交換しました ～第1回嶺北地区普及推進協議会～



元年度の普及指導計画の説明

6月26日、普及所で第1回普及推進協議会を開催し、農家代表や関係機関からなる委員13人が参加しました。普及所は、令和元年度の普及指導計画を説明し、内容や推進方法について意見交換を行いました。また、「中山間地農業ルネッサンス事業に係る地域別農業振興計画」等、地域振興に関する情報も提供しました。

委員からは、普及所の支援を得てユズの出荷調整作業を見直すことで、省力化が可能になった、無農薬ユズ果汁を輸出につなげる取組への希望など、活発な意見が出されました。

普及所は、ご意見を踏まえ、関係機関と連携し、地域の農業振興に取り組んでいきます。

ミニトマトの収量品質の向上に向けて ～現地検討会～



生育状況に合った管理を説明

7月2日、大豊町でミニトマトの現地検討会が開催され、生産者8人が参加しました。

今年度は裂果やへた落ちが少ない新品種に取り組んでいるため、種苗会社の担当者が、品種特性に応じた今後の管理を説明し、普及所からは今後発生が多くなる病害虫の防除について説明しました。

生産者からは、「新品種は草勢が強いがこの状態で大丈夫か」、「新品種は節間が短く作りやすい」など、活発な質問や意見交換が行われました。

今後も、品種特性把握のための実証成果等の情報提供などを行い、収量品質が向上するよう支援していきます。

中山間地域の農業生産力の向上 ～クルベジ定例会の開催～



ネギ栽培に挑戦中

7月3日、(株)大豊ゆとりファームで社員と普及所の職員5人が集まり、クルベジ定例会を開催しました。

定例会では、現在の野菜の作付状況や今後の作付計画について確認しました。普及所からは、栽培管理上の注意点や品目別に集計した作業時間の結果を報告し、現状の問題点や課題を共有しました。

(株)大豊ゆとりファームでは、今年から青ネギ栽培に取り組んでおり、今後は更に収穫などの作業が集中するため、新たな研修生の受入が必要との意見が聞かれました。

今後も、周年安定した農業生産が確立されるよう支援していきます。

天敵を勉強しました ～土佐町小学校現地授業～



米ナス栽培ほ場で、害虫や天敵を探す児童

7月8日、土佐町小学校は、米ナス栽培ほ場で現地授業を開催し、5年生30人が天敵を使った農業について勉強しました。

普及所は、天敵や訪花昆虫への関心を高めてもらうため、クイズを実施したり、ほ場内で天敵や害虫をルーペを使って観察したりしました。参加した児童からは、蜂が怖かったが、天敵や害虫がわかっておもしろかったという声が聞かれました。

普及所は、JA園芸部と連携し地元の小学生に対して農業への関心を高める取組を支援していきます。

集落営農組織と集落活動センターの連携を学ぶ ～土佐町集落営農視察研修～



農業機械・施設について質問する参加者

7月9日、土佐町集落営農先進地視察研修が開催され農家46人、関係機関8人が参加し、梶原町「おちめん営農組合」の視察研修を実施しました。

「おちめん営農組合」は平成31年2月に設立したばかりの組織で、計画作成、共同機械整備などで「集落活動センターおちめん産地づくり部会」と連携しています。

視察研修では、営農組合設立の経過や、集落活動センターの活動（加工グループ、合宿受入れ等）について学びました。

普及所は、事前に土佐町と視察研修の内容について検討し、車内で農村を取り巻く状況について紹介しました。

参加者からは「組織立ち上げについて本音の話が聞けた」「地域でまとまって活動していてすばらしい」など参考になったという意見が多く聞かれました。

今後も普及所は土佐町での集落営農組織化を支援していきます。

地域内の農業労働力を見つけ出そう！ ～農福連携指導員研修会～



三色ピーマンを拭く参加者

7月9日、土佐町の(株)れいほく未来のハウス及び作業場で農福連携を推進するため、農作業体験会を開催し、管内2ヵ所の就労継続支援B型事業所の4人と(株)れいほく未来社員1人が参加しました。(株)れいほく未来の職員の指導のもと、三色ピーマンの収穫や荷造りを体験し、作業受委託の実施に向けた手応えがありました。

普及所は、農福連携の仕組み作りを通して、(株)れいほく未来の経営改善を支援します。